ID=

台灣國際

平利法律事长所

FOUNDER: M. S. LIN (1934 - 1997) J. K. LIN / DIRECTOR

Y. S. LIN H. G. CHEN C. Y. LIN CYNTHIA CHEM*
C. Y. LIN J. P. CHANG*
JOHNITY YANG S. T. VANG*
JANE HSIAO C. C. LIII*
CHARLES KAO Y. H. RAO* C. C. CHEN ALAN CHIEN WELLY CHAN NELSON VI VICENT HSU! TING TING WU! A C. LIN PI-CHUN WU C. II. IJ

R. C. FAN ZONG-YED KUO S. S. HUANG

LI-CHEN CHEN CHI IA WITE ANHONG LIN-KULFANG CTIANG* FONATHAN CHIOU*

WENLTZU LIAGO HENRY HUNG VILLEN CHEN CHUNG-FEN HEUEH BETTY KO JEAN CHIANG ANGELA SHEN Y. F. LEE K. E. HENG SHERRY HHANG K. T. TZENG TINA HSIEH

Attorneys-at-Law

Since 1965

7TH FLOOR, WE SHENG BUILDING NO. 125 NANKING EAST ROAD, SEC. 2 P. O. BOX 39-243. TAIPEL TAIWAN TEL:886-2-2507-2811 FAX:886-2-2508-3711 · 2506-6971

E-mail:tiplo@tiplo.com.tw http://www.tiplo.com.tw

HAY 28, 2004

TAIWAN INTERNATIONAL PATENT & Law OFFICE

GENERAL LEGAL PRACTICE PATENT TRADEMARK COPYRIGHT UNFAIR COMPETITION

COMPORATE & INVESTMENT LICENSING TRADE DISPUTE LITIGATION AND ARRITRATION TAXATION DEAL PRIATE BANKING AND SECURITIES FINANCING AND INSURANCE LABOUR AND IMMIGRATION

日本国東京都千代田区九の内3-1-1

国際ビル8階 曾我特許塞務所

CHIA YI LIU*

御和当 山田友町 殿

【初審一拒絕查定】

台湾特許出願番号: 91100079 出願人: 東京応化工業株式会社

件 名: Positive photoresist composition

質 Case No: FA-08728 TY/MK ドラドロ

当 Case No: 743471

2004年5月28日 台流国際更利法律事務所 弁理士・弁護士 林志刚



採飲 益々御酒業の段大勝に存じ上げます。

機記出頭の件につき、知的財産局 (特許庁) で初審の結果、残念ながら拒絶査定となりまし た。同語定書及び訳文を問封にて御拝送数します。

この拒絕査定に不服の場合は専利法の規定によって、2004年 6月21日までに同局に対し再審 査の請求をすることができますので、期限内に御指示下さるようお願い申し上げます。同期限内 に御指示が頂けない場合は一応再審査の請求をして期限を確保しておきます故御了承下さい。 再審査理由書の提出期間は確常再審査請求の日より三カ月閲許されますので、最終期限は 2004 年 9月17日です。2004年 8月17日までに貴方の理由書案を当所まで御敬示頂ければ幸

御指示をお待ちしております。

甚に存じます。

具 £υ

問封: 知的財産局審定書コピー及び訳文各2 部

添付資料

2 部

正本

經濟部智慧財產局專利核駁審定書

\$7

線

地 受 文 者:東京應化工業股份有限公司(代理人: 址:臺北市中山區南京東路二段一二五號七

發文字號:〈九三〉智專二〈六〉01079字 發文日期:中華民國九十三年五月二十日 第〇九三二〇四七九七〇〇號

發信日 四年以月 八日

支信日 以平上月 公日

專利分類IPC(7)··· GO3F 7/023, 7/30

三、申請人:

二、發明名稱:正型光阻組成物

一、申請案號數:〇九一一〇〇〇七九

名稱:東京應化工業股份有限公司

四、專利代理人:

地址:日本

姓名:林志剛 地址:臺北市中山區南京東路二段一二五號七樓 先生

五、申請日期:九十一年一月四日

六、優先權項目:

1 2001/01/17 日本2001-009372

09320479700

第一百

- THE WALL THE

c:\A9300150.067

七、審查人員姓名:彭立祥 八、審定內容:

主文:本案應不予專利

依據:專利法第二十條第二項。 (一)本案係以鹼溶性樹脂、包含在萘醌二叠氮磺酸化合物之式Ⅰ及式Ⅱ的醌二叠氮酯之 敏感 劑及如式Ⅲ之化合物,組成正型光阻組成物。

(三)本案申請專利範圍第一項未具體界定光酸產生劑之組成比例及鹼溶性樹脂之成份範圍 四)檢附前述引證資料之首頁影本,如附件。 另各項中一至少」不明確用語,併予指出。

據上論結,本案不符法定專利要件,爰依專利法第二十條第二項,審定如主文。

局長









第二百

c:\A9300150.067

(二)經查JP 6-167805、US 5652081、US 5738968及US 5985507等前案已揭示以配二叠氮酯

化合物應用在鹼可溶性樹脂組合物中做為形成光阻圖案之正型光阻組成物,因此本案係

依申請前既有之技術,而為熟悉該項技術者所能輕易完成者,不具進步性。

五十頁計),向本局申請再審查。

整(專利說明書及圖式合計在五十頁以上者,每五十頁加收新台幣五百元,其不足五十頁者以 如不服本審定,得於文到之次日起三十日內,備具再審查理由書一式二份及規費新台幣陸仟元 依照分層負責規定授權單位主管決行

はいる。

\$7



Your Ref.: FA-08728 TY/mk Our Case No.: 743471 Appln. No.: 91100079

Present Stage: Primary Examination Type of Notice: Decision of Rejection

Cited Reference: Y

[TRANSLATION]

Reasons:

- The subject application is related to a positive photoresist composition, which
 comprises an alkali-soluble resin, a photosensitizer comprising a quinonediazide
 ester between a naphthoquinonediazidosulfonic acid compound and at least one of
 a compound of the formula (I) and a compound of the formula (II), and a sensitizer
 as represented by the formula (III).
- 2. However, it is found that the use of a quinonediazide ester in combination with an alkali-soluble resin for producing a positive photoresist composition for forming resist patterns has been conventional, as disclosed by the prior art documents: IP 6-167805, US 5,652,081, US 5,738,968 and US 5,985,507. Thus, the subject application belongs to a variation of the prior art, which can be completed easily by the artisan, and has no inventive step.
- 3. Also, it is found that claim 1 now on file does not recite clearly the amount ratio of the photo acid and the species of the alkali-soluble resin, which is improper and should be amended. Further, the term "at least" as used in the claims is indefinite and should be amended as well.
- Enclosed please find a copy of the front page of the cited references.

In conclusion, the subject application fails to conform to the statutory patent requirement and therefore a patent should not be granted thereto in accordance with Paragraph 2 of Article 20 of the Patent Law.

> Handled by: Jimmy Yu Supervisor: C.Y.Lin DDN:886-2-2508-6624 MAY 2 8 2004

1/1

.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-167805

(43)Date of publication of application : 14.08.1894

(51)Int Cl. 903F 7/022
901L 21/027

(21)Application number : 04-346400 (71)Applicant : SUMITOMO CHEM CO LTD

(22)Date of filing: 25.12.1992 (72)Inventor: KAMIYA YASUNORI TOMIOKA ATSUSHI NAKANISHI HIROTOSHI

(30)Priority

Priority number: 04144204 Priority date: 04.06.1892 Priority country: JP 04261272 30.09.1992

(54) POSITIVE TYPE RESIST COMPOSITION

(57)Abstrac

PURPOSE: To provide the positive type resist compsn. having excellent balance in various performances, such as resolution, profile and depth of focus, by incorporating a quinnendiazide photosentitive agent conts, at least one kind of quinnendiazide sulfonates among specific phenol compds. and an alkaline-salubilly resin.

CONSTITUTION: The quinonedizatioe photosensitive agent config. at least too kind of the quinonedizatioe sulfonates among specific phenol compde, expressed by formula I and the alkaline-soluble rasin are incorporated into this positive type resist compan. In the formula I, R1 denotes hydrogen or halogen, etc. R3 denotes alkyl or phenyl. 21 to 25 are respectively independently appropriate the property of the prop

LEGAL	STATU	s

[Date of request for examination] 27.08.1898
[Date of sending the examiner's decision of rejection]
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]
[Date of final disposal for application]
[Patent number] 3468218
[Patent number] 2500-26019
[Date of registration] 2500-26019
[Author of appeal against examiner's decision of rejection] 2000-19713

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

13 12 2000

(19)日本国特許庁 (JP) (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出顧公開番号 特開平6-167805

(43)公開日 平成6年(1994)6月14日

簡所

審査請求 未請求 請求項の数3(全17頁)

(21)出顯番号	特顏平4-346400	(71) 出頭人 000002093
(22)出顧日	平成4年(1992)12月25日	住友化学工業株式会社 大阪府大阪市中央区北浜 4 丁目 5 番33 号
(31)優先権主張番号 (32)優先相 (33)優先權主張國 (31)優先權主張番号 (32)優先日 (33)優先権主孫國	(32) 優先日 平4 (1992) 6 月 4 日 (33) 優先権主張国 日本 (JP) (31) 優先権主張番号 特顯平4-261272	(72) 発明者 上谷 保訓 大阪府大阪市北北区春日出中3丁目1 摄98 号 住友化学工業株式会社内 (72) 発明者 富岡 淳 大阪府大阪市北区春日出中3丁目1 番98 号 住女化学工業株式会社内
MAN		(72) 発明者 中西 弘俊 大阪府大阪市此花区春日出中3丁目1番98 号 住友化学工業株式会社内
		(74)代理人 弁理士 久保山 隆 (外1名)

(54) 【発明の名称】 ポジ型レジスト組成物

(57)【要約】

【目的】 解像度、プロファイル及び焦点深度等の諸性 能のパランスに優れたポジ型レジスト組成物を提供する。

【構成】 一般式 【化1】

(式中、R1 は水素もしくはハロケン等を表わし、Rs

はアルキル又はフェニルを表わす。I は $1 \sim 3$ である。Q: \sim Q:: t は水素、アルキルもしくはフェニルである。Z: \sim Z: t は (t t t t

(式中、R: は水業もしくはハロゲン等を表わし、R1 は前配と同じ重要を有する。yは1~3であり、pは0 ~1である)を表わす。)で示されるフェノール化合物 の中の少なくとも1種のキノンジアジドスルホン種エス アルを含むキノンジアジド系感光剤及びアルカリ可溶性 樹脂を含有することを特徴とするボジ型レジスト組成 物。

*【化1】

【特許請求の範囲】

〔式中、R』は水素もしくはハロゲン原子、-OCOR , 或いは置換されていてもよいアルキルもしくはアルコ キシ基を表わし、R。は置換されていてもよいアルキル もしくはフェニル基を表わす。x は1~3の整数を表わ※30

※す。Q1 ~Q1:は各々独立して水素原子、アルキルもし くはフェニル基を表わす。 Z: ~Zs は各々独立して (化2]

(式中、R: は水素もしくはハロゲン原子、-OCOR ・或いは置換されていてもよいアルキルもしくはアルコ キシ基を表わし、R。は前配と同じ意味を有する。y は 1~3の整数を、pは0又は1を、各々表わす。)を表 40 わす。〕で示されるフェノール化合物の中の少なくとも 1種のキノンジアジドスルホン酸エステルを含むキノン ジアジド系感光剤及びアルカリ可溶性樹脂を含有するこ とを特徴とするポジ型レジスト組成物。

【請求項2】高速液体クロマトグラフィーにより測定し た、全キノンジアジド系感光剤に対するキノンジアジド スルホン酸ジエステルのパターン面積比が0.5 以上であ る、請求項1に記載のポジ型レジスト組成物。

[請求項3] 一般式 (Ia) ~ (Id) において、R1

よいアルキルもしくはアルコキシ基を表わし、且つ、x が2又は3である、請求項1に記載のポジ型レジスト組 成物。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は紫外線、エキシマーレー ザー祭を含む漢葉外線、電子線、イオンビーム又はX線 等の放射線に感応するポジ型レジスト組成物に関する。

[0002]

【従来の技術】近年、集積回路については高集積化に伴 う微細化が進み、サブミクロンのパターン形成が要求さ れている。この結果、ポジ型レジスト用に、より優れた プロファイル、焦点深度及び解像度等を有するポジ型レ がハロゲン原子、-OCOR: 或いは屋換されていても 50 ジスト組成物が求められている。特に、16~64MDRAMの

作製においては0.5 μm以下の線幅のパターンを、プロ ファイル良く且つ広い焦点深度で解像することが必要で ある.

[0 0 0 3] SPI Evol. 1086 Advances in Resis t Technology and ProcessingVI(1989)/363-373 頁には、クレゾール/ホルムアルデヒド ノボラック樹 脂、並びに、2、3、4ートリヒドロキシベンゾフェノ ン、2、6-ビス [(2-ヒドロキシー3, 5-ジメチ ルフェニル) メチル) -4-メチルフェノール又は2. 6-ピス〔(4-ヒドロキシー3,5-ジメチルフェニ 10 ル) メチル) - 4 - メチルフェノールとナフトキノン-2-ジアジド-5-スルホン酸との、各々のトリエステ ルを含有するポジ型レジスト組成物が記載されている。 特開平2-285351号公報には、下式

[0004]

[化3]

【0005】 (式中、R1 及びR1 は水素、炭素数1~ 4の直鎖もしくは分岐したアルキル基又はアルコキシ基 であり (但し、R1 及びR2 が同時に水素になることは ない)、Xは2価の有機基である。)で示される基を1 分子中に少なくとも1個有するポリヒドロキシ化合物と 1,2-ナフトキノン-5-(及び/又は-4-)スル ホニルクロリドを反応させて得られる感光物、及びアル カリ可溶性ノボラック樹脂を含有することを特徴とする*30

【0011】 [式中、R: ~R: は各々水業又は低級ア ルキル基である。〕で示されるフェノール化合物とo-キノンジアジドスルホニルクロリドとの縮合物を含む感 40 光剤及びアルカリ可溶性フェノール樹脂を含有するポジ 型フォトレジスト組成物が記載されている。又、特麗平 2-296248号公報には、アルカリ可溶性フェノール樹脂 と、感光剤として下式 [0012]

【化7】

*ポジ型フォトレジスト組成物が記載されている。又、特 開平2-296249号公報には、下式 [0006]

(化4)

【0007】〔式中、R1~R1 は水素、ハロゲン、炭 業数1~4のアルキル基、アルケニル基、アルコキシ基 又は水酸基である(但し少なくとも1つは下式の基であ る)。

[0008] (化5)

[0009] (R* 及びR* はハロゲン、アルキル基文 はアルケニル基であり、nは0、1又は2である。)) で示される化合物のキノンジアジドスルホン酸エステル を含む感光剤。並びにアルカリ可溶性フェノール樹脂を 含有するポジ型レジスト組成物が記載されている。さら に、特開昭62-10648 号公報には、下式 [0010]

【化6】

【0013】 (式中、R1 ~R6 は水素、ハロゲン、C 1 ~ C。のアルキル、アルケニルもしくはアルコキシ基 又は水酸基であり、但し、少なくとも一つは [0014]

[化8]

(4)

特開平6-167805

(OH)3.n

R6 [0015] である。Aは-S-、-O-、-C (O) -, -c (0) -0-, -s (0) -, - (0) s (O) -又は-C(R*)(R*)-を、R*はハロゲ ン、アルキル基又はアルケニル基を、R* 及びR* は水 案、アルキル基、アルケニル基又はフェニル基を、nは 0、1又は2を、各々表わす。]

【0016】で示される化合物のキノンジアジドスルホ ン酸エステルを含有するポジ型レジスト組成物が記載さ* *れている。しかしながら、これらの組成物では、広い焦 点深度で0.5 μm以下の線幅のパターンをプロファイル 良く解像することができなかった。

[0017]

【発明が解決しようとする課題】本発明は解像度、プロ ファイル及び焦点深度等の諸性能のパランスに優れたポ ジ型レジスト組成物を提供する。

[0018]

【護題を解決するための手段】本発明は、一般式 [0019]

[化9]

【0020】〔式中、R1 は水素もしくはハロゲン原 子、-OCOR。或いは置換されていてもよいアルキル もしくはアルコキシ基を表わし、Ra は置換されていて もよいアルキルもしくはフェニル基を扱わす。1 は1~ 40 【化10】 3の整数を表わす。Q1 ~Q11は各々独立して水素原※

※子、アルキルもしくはフェニル基を表わす。 Z1~2. は各々独立して [0021]

【0022】(式中、Raは水素もしくはハロゲン原 子、-OCOR, 或いは屋換されていてもよいアルキル

を有する。y は1~3の敷数を、pは0又は1を、各々 表わす。) を表わす。) で示されるフェノール化合物の もしくはアルコキシ基を表わし、R。は前記と同じ意味 50 中の少なくとも1種のキノンジアジドスルホン酸エステ ルを含むキノンジアジド系感光剤及びアルカリ可溶性樹 脂を含有することを特徴とするポジ型レジスト組成物で ある.

【0023】R:~R,で表わされる微換されていても よいアルキル基及びR:~R:で表わされる置換されて いてもよいアルコキシ基として好ましくは直鎖もしくは 分岐状の炭素数1~4のものが挙げられる。Q: ~Q:: で表わされるアルキル基として好ましくは直鎖もしくは* *分岐状の炭素数1~4のものが挙げられる。好ましいR : ~R: としてはメチル、エチルもしくはt-プチル基 等が挙げられる。好ましいQ: ~Q::としては水業原子 もしくはメチル基等が挙げられる。一般式 (Ia)~ (Id) で示されるフェノール化合物として好ましく は、例えば [0024]

【化11】 ÇH3

CH₂

но

.СН3 но

[0025] (化12]

[0026]

特開平6-167805

-52-

化16]

[0029]

[0030] 等が挙げられる。一般式(Ia)~(I d)で示されるフェノール化合物は例えば下式 [0031]

【化17】

$$O = \begin{pmatrix} Q_1 & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ &$$

(各式中、2: ~2: 及びQ: ~Q:。は前配と同じ意味 を有する。) で示される化合物の各々を、pートルエン スルホン酸又は硫酸学の酸酸媒の存在下で反応させるこ とにより製造することができる。

【0 0 3 3】一般式 (I a) ~ (I d) で示されるフェ ノール化合物のキノンジアジドスルホン酸ジエステル量 の全キノンジアジド系感光剤量に対する比は、高速液体 ウロマトグラフィーにより閉定したパケーン面積比(25 4 n mの要外線で特出)が大きい製剤ました(よりな・カール生物の反応条件を流血通択 フェノール化合物のキノンジアジドスルホン酸ジエステ

しくは、飲パターン面積比が0.5 / 1以上である)、解 像度、プロファイル及びァ値等の優れたポジ型レジスト が得られる。例えば、全キノンジアジド系感光剤中、一 般式 (Ia) ~ (Id) で示されるフェノール化合物の キノンジアジドスルホン酸トリエステル~ヘプタエステ 30 ル量が増加すると、感度が低下し、且つ現像残さ(スカ ム) が増加するので好ましくない。又、一般式 (Ia) ~ (Id) で示されるフェノール化合物のキノンジアジ ドスルホン酸モノエステル量が増加すると、残膜率及び 解像度の観点から好ましくない。キノンジアジド系感光 刺としては一般式 (I a) ~ (I d) で示されるフェノ ール化合物のキノンジアジドスルホン酸エステルが好ま しく、該エステルを用いる場合には、一般式 (Ia)~ (Id) 中、左右両端のベンゼン環に位置する水酸基が 共にエステル化されているキノンジアジドスルホン酸ジ 40 エステル量が相対的に多い方が好ましい。一般式 (I a)~(1d)で示されるフェノール化合物のキノンジ アジドスルホン酸エステルは公知の方法、例えば一般式 (Ia)~(Id)で示されるフェノール化合物と、 1. 2~ナフトキノンジアジドスルホン酸ハライドもし くは1、2-ペンゾキノンジアジドスルホン酸ハライド とを、弱アルカリの存在下に反応させることにより製造 することができる。この際、例えば、上記フェノール化 合物及び上配ハライドのモル比等の反応条件を適宜選択 することにより、一般式 (I a) ~ (I d) で示される

Patent provided by Sughrue Mion, PLLC - http://www.sughrue.com

特閣平6-167805

(10)

*## (III)

ルを高い選択率で得ることができる。

17 [0034] キノンジアジド系感光剤の使用量はポジ型 レジスト組成物の全國形分中、通常5~50重量%、好ま しくは10~40重量%である。

[0035] アルカリ可溶性樹脂はフェノール類とアル デヒド類とを付加縮合させて得られる。フェノール類と しては、例えばフェノール、o~、m-もしくはp-ク レゾール、2、5-キシレノール、3、5-キシレノー ル、3、4~キシレノール、2、3、5~トリメチルフ ェノール、4-t-プチルフェノール、2-t-プチル 10 フェノール、3-t-プチルフェノール、3-エチルフ ェノール、2-エチルフェノール、4-エチルフェノー ル、3-メチル-6-t-プチルフェノール、4-メチ ルー2-t-ブチルフェノール、2-ナフトール、1, 3-ジヒドロキシナフタレン、1, 7-ジヒドロキシナ

[0037] (式中、R: ~R: は各々独立して水素原 子又は炭素数1~4のアルキルもしくはアルコキシ基を 表わし、k は1又は2を表わす。)で示されるフェノー ルの1種若しくは2種以上及び一般式 (IV) [0038] 四日191

フタレン、1,5 ージヒドロキシナフタレン、吹いは一*
$$R_g$$
 R_{7}
 R_{13}
 R_{7}
 R_{8}
 R_{9}
 R_{10}
 R_{10}
 R_{10}
 R_{11}
 R_{12}
 R_{12}
 R_{12}
 R_{13}

【0039】(式中、Rr ~Rrzは各々独立して水素原 子又は炭素数1~4のアルキルもしくはアルコキシ基を 表わし、R12は水素原子、炭素数1~4のアルキル基又 はアリール基を表わす。a ~c は各々0、1又は2を表 わし、a +b +c > 2 である。) で示される化合物の1 種若しくは2種以上の混合物等が挙げられる。これらの フェノール新は単独で、或いは2種以上混合して用いら tas.

【0040】アルデヒド類としては、例えばホルムアル **デヒド、バラホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、ブ** ロピルアルデヒド、ペンズアルデヒド、フェニルアルデ ヒド、α-もしくはβ-フェニルプロピルアルデヒド、 o-、m-もしくはp-ヒドロキシベンズアルデヒド、 グルタルアルデヒド、グリオキサール又はoーもしくは n-メチルベンズアルデヒド等が挙げられる。フェノー 40 ル類とアルデヒド類との付加縮合は触媒の存在下に常法 により行われ、反応条件は通常60~250 ℃·2~30時間 である。触媒としては、例えば有機酸(蓚酸、蝴酸、ト リクロロ酢酸もしくはp-トルエンスルホン酸等)、無 機能(塩酸、硫酸、過塩素酸もしくは燐酸等)又は二価 金属塩 (酢酸亜鉛もしくは酢酸マグネシウム等) 等が挙 げられる。付加縮合はパルクで、或いは適当な溶媒中で 行われる。付加縮合で得たアルカリ可溶性樹脂の好まし いポリスチレン換算重量平均分子量は2000~50000 であ ъ.

【0041】付加縮合で得たアルカリ可溶性樹脂は解像 度、耐熱性及びスカムの観点から、例えば分別等の操作 を加えて、ポリスチレン検算分子量1000以下の成分のG PCによるパターン面積 (ITV-254pm, 以下同じ) が未反 30 応フェノール製のパターン面積を除く全パターン面積に 対して、各々、奸主しくは25%以下に、より好ましくは 20%以下に、特に好ましくは15%以下にされる。分別は 付加縮合で得たアルカリ可溶性樹脂を良溶媒、例えばア ルコール (メタノールもしくはエタノール等)、ケトン (アセトン、メチルエチルケトンもしくはメチルイソプ チルケトン等)、エチレングリコール及びそのエーテル 毎、エーテルエステル類(エチルセロソルプアセテート 等) 又はテトラヒドロフラン等に溶解し、次いで、得ら れた潜液を水中に注いで沈澱させる方法、或いはベンタ ン、ヘキサン、ヘプタンもしくはシクロヘキサン等の溶 媒に注いで分被させる方法等により行われる。 分別後の アルカリ可溶性樹脂の重量平均分子量は3000~20000 が 好ましい。アルカリ可溶性樹脂の好ましい添加量はポジ ボレジスト組成物中の全間形分中、60~90重量%であ る。又、本発明のポジ型レジスト組成物には、感度調整 剤として分子量900 未満のアルカリ可溶性化合物を添加 することもできる。分子量900 未満のアルカリ可溶性化 合物としては、フェノール性水酸基を少なくとも2個以 上有する化合物が好ましい。より好ましいアルカリ可溶 50 性化合物としては、例えば前配の一般式 (IV) で示さ (11)

特開平6-167805

10 れる化合物、特開平4-50851 号公報に一般式 (I) で 記載されている化合物又は特闘平3-179353号公報に一 殺式(1)で記載されている化合物等が挙げられる。分 子量900 未満のアルカリ可溶性化合物の好ましい使用量 はポジ型レジスト組成物の全間形分中、3~40度量%で ある。ポジ型レジスト組成物にはさらに、例えば増感 剤、他の樹脂、界面活性剤、安定剤或いは形成像を一層 可視的にするための染料等の各種添加剤を添加すること

ができる. 【0042】ポジ型レジスト液の鍵盤に用いる溶媒とし 10 ては適当な乾燥速度を有し、溶媒が蒸発して均一で平滑 な機能を与えるものがよい。このような密媒としては、 例えばエチルセロソルプアセテート、プロピレングリコ ールモノメチルエーテルアセテート等のグリコールエー テルエステル類、特別平2-220056号に配載の溶媒、ビ ルビン酸エチル、酢酸n-アミル、乳酸エチル等のエス テル幅、2-ヘブタノン、ァープチロラクトン等のケト ン類等が挙げられる。これらの溶媒は単独で、或いは2 種以上混合して用いられる。溶媒量はウエハー上に均管 で、ピンホール及び塗りむらの無い塗布膜ができるよう 20 な釜布が可能であれば特に制限されないが、通常、固形 分(即ち、キノンジアジド系感光剤、アルカリ可溶性樹 **耐及び各種添加剤)が3~50減量%になるようにポジ型** レジスト液を調製する。

[0043]

【毎明の効果】本発明のポジ型レジスト組成物はレジス トとして要求される解像度、プロファイル及び焦点深度 等の賭性能のパランスに優れている。

[0 0 4 4]

るが、本発明はこれらの実施例により、何ら限定される ものではない。例中、部は重量部を示す。

[0045] 合成例1-1

2, 5-キシレノール733.2g、水酸化ナトリウム60.0g 及び水540gの混合物に37%ホルマリン162.2gを70~75℃ ・3時間で滴下した。滴下終了後、同温度で4時間機栓 した。55℃まで冷却後、36%塩酸172gを添加して10分機 絆し、次いでメテルイソプチルケトン1500g を加えて反 応混合物を完溶させた。次いで、同温度でイオン交換水*

【0049】合成例2

合成例1-2で得た化合物14g、1,2-ナフトキノン ジアジドー5-スルホニルクロリド16、08g及びジオキサ ン150、4gの混合物にトリエチルアミン7、27g を20~30℃ 50 ジオキサン16.1g で洗浄した。濾液及び洗液を酢酸(5

*150gで洗浄後、分液した。得られた油層を濃縮後、トル エン500gを加えて家温で一晩複雑した。析出した結晶を 濾過し、得られたケーキをトルエン800gで洗浄してウエ ットケーキ425.1gを得た。このウエットケーキに酢酸エ チル425g及びトルエン300gを加え、75~80℃で2時間提 栓・洗浄した。次いで、溶媒を濃縮後、トルエン500gを 加えて75~80℃で1時間提拌・洗浄した。次いで、室温 まで冷却後、濾過した。得られたケーキをトルエン800g で提择・洗浄した後、濾過・乾燥して下式で示される化

合物193.5gを得た。 [0046]

(4:20)

[0047] 合成例1-2

フェノール188g、水46g 及び96%硫酸0.9gの混合物を30 ~35℃に保温しながら、合成例1-1で得た化合物31.6 g を30分おきに10分割仕込みした。仕込み終了後、同温 度で2時間攪拌した。次いで、トルエン200ml 、酢酸エ チル200ml 及び水300ml の混合物を加え、洗浄・分液し た。得られた袖層を連縮後、酢酸エチル9.3g及びトルエ ン186gを加えて電温で一晩機幹した。析出した結晶を進 温し、得られたケーキをトルエン60mlで撹拌・洗浄し た。次いで、濾過後、得られたケーキをアセトン32.7g 【実施例】以下、本発明を実施例により具体的に説明す 30 に50~55℃で溶解し、トルエン68g を添加後、アセトン を講顧した後、濾過した。得られたケーキをトルエン50 alで提择・洗浄した。次いで、濾過後、得られたケーキ **をアセトンに溶解し、トルエンを添加し、次いでアセト** ンを濃縮後、濾過した。得られたケーキをトルエンで提 枠・洗浄し、濾過後のケーキを乾燥して下式で示される 化合物18.5g を得た。

[0048] UK211

・30分で滴下した。滴下終了後、30℃で6時間提拌し た。次いで、酢酸2.44g を添加後、同温度で1時間攪拌 した。次いで、反応混合物を濾過し、得られた濾過残を

21 g) 及びイオン交換水 (500g) 混合液中に注入し、1時 間提拌した。折出した結晶を濾過後、得られたケーキを イオン交換水500gで撹拌・洗浄した。次いで、濾過して 得られたケーキを40℃で乾燥後、28g の販光剤Aを得 t.

[0050] 合成例3

2、3、5-トリメチルフェノール50.46g、2、6-ビ スヒドロキシメチル-p-クレゾール50,46g、メタノー ル132.46g 及び96%硫酸3.06g の混合物を40℃・24時間* *反応させた。反応混合物に酢酸エチル1kg及びイオン交 換水2kgを加えて機幹・洗浄した。分液後、有機層をさ らにイオン交換水2kgで洗浄した。得られた有機層にト ルエン300gを加えて室温で約36時間放置した。生じた結 晶を建遥し、さらにn-ヘキサンで洗浄後、酢酸エチル **/トルエンで再結品して下式**

22

[0051]

(佐22)

【0052】で示される化合物を得た。 合成例4

合成例3で得た化合物13.44g、ナフトキノンー(1, 2) -ジアジドー(2) -5-スルホン酸クロリド10.75 g (反応モル比1:2) 及びジオキサン168 gの混合物 20 中に、20~25℃でトリエチルアミン4.45 gを30分かけて 滴下し、滴下終了後、さらに同温度で4時間攪拌した。※

※反応混合物をイオン交換水に注ぎ、生じた結晶を濾過 後、イオン交換水で洗浄し、次いで乾燥して感光剤Fを 得た.

[0053] 合成例 5 下式

[0054]

化231

$$\begin{array}{c|c} H_3C & CH_3 & CH_3 \\ \hline \\ HO & CH_4 & CH_3 \\ \hline \end{array}$$

(1、2) -ジアジドー(2) -5-スルホン酸クロリ ド10.75g (反応モル比1:2) 及びジオキサン168gの混 合物中に、20~25℃でトリエチルアミン4.45g を30分か けて滴下し、滴下終了後、さらに同温度で4時間攪拌し た。反応混合物をイオン交換水に注ぎ、生じた結晶を進大

【0055】で示される化合物12.3g、ナフトキノン 30★過後、イオン交換水で洗浄し、次いで乾燥して感光剤J

【0056】合成例6

上式で示される化合物に代えて下式

[0057] 化241

【0058】で示される化合物を用いる以外は、合成例 5と同様にして感光剤Kを得た。

【0059】実施例 (例番号1~7及び10~11) 及び比 較例 (例番号8~9)

アルカリ可溶性樹脂 (表中、樹脂と略配する)、キノン ジアジド系感光剤 (表中、感光剤と略記する) 及び添加 剤を下表に示す組成で、2-ヘプタノン50部に混合し

巡してレジスト被を調製した。常法により洗浄したシリ コンウエハーに、回転盤布機を用いて上記レジスト液を 1.1 µm厚に塗布し、ホットプレートで90℃・1分ペー クレた。次いで、365mm (1線) の鄭光波長を有する縮 小投影響光機 (ニコン社製品、NSR175517A NA=0.5) を用いて露光量を設隘的に変化させて露光した。次い で、このウエハーをホットプレートで110 ℃・1分ペー た。混合液を孔径 $0.2~\mu\,\mathrm{m}$ のテフロン製フィルターでie 50 クした。これをSOPD (現像液;住友化学工業(株) 製 (13)

特開平6-167805

品)で1分現像してボジ型パターンを得た。解像度は0.50μmラインアンドスペースパターンが1:1になる度 光量 (突効感度) で、膜域りなく分離するラインアンド スペースパターンの寸法を走査型電子顕微値で評価した。プロファイルは突効感度における0.45μmラインアンドスペースパターンの新面形状を走査型電子顕微鏡で 収載なした。機成理体は砂板線においてのよいのよく、

*アンドスペースパターンが譲渡りなく分離する焦点の幅を走査型電子顕微鏡で断面観察して別定した。スカムについては実効態度におけるペストフォーカスでの0.45 μ mラインアンドスペースの線則の残さの有無を調べた。 [0066] [表1]

焦点深度は実効感度において0.45μmライン*							
RI B	レジスト組成				シジス	۱ <u>۱</u>	生能
樹	首新期	Ⅲ 感光;			ま プロフ イル	7 無点	1
a 15書		A 5部		1	П	1.6 µm	
a 15#	4.5 部	B 5部	540 msec	0.35 μm	П	1. 6 µm	無し
a 15部	4.5 部	C 5部	500 msec	0. 85 μm	П	1.4 µm	無し
b 15都	4. 5 部	D 5部	420 msec	0. 375 μm	П	1.2 µm	無し
a 15部	4.5 部	E 5部	400 msec	0. 375 μm	П	1.0 µm	無し
a 15部	4.5 部	F 5部	540 msec	0. 35 μm	Л	1. 4 μm	無し
c 15部	4.5 部	G 5部	500 msec	0. 35 μm	Л	1. 4 μm	無し
	利 a 15音 a 15部 a 15部 a 15部	が レジス 特別	が レジスト組成 が 検謝 然加	が レジスト組成 特別 然加 解光材 突3 特別 然加 解光材 突3 15部 部 5部 msec a 4.5 B 540 msec a 4.5 C 5部 msec b 4.5 D 420 msec b 4.5 D 420 msec a 4.5 E 400 msec a 4.5 E 400 msec a 4.5 F 540 msec c 4.5 G 500 msec c 5 G 5 G 500 msec c 5 G 5 G 5 G 5 G 5 G 5 G 5 G 5 G 5 G 5	が レジスト組成 対	レジスト組攻 レジスト 横野 添加 展光邦 実効 解像度 プロフィル 4.5 5 部 msec μm	レジスト組成 レジスト を

[0061]

(14)特別平6-167805 25 (続き) 4.5 650 0, 425 0.8 有り 15部 部 5部 nsec μm μm 9 4.5 I 600 0, 45 0.6 有り 15部 部 5部 msec иm μm

[0062]

* * 【表3】

例	レジスト組成			レジスト性能				
番号	樹脂	都加 剤	感光剂	実効感度	解像度	プロファ イル	無点 深度	スカム
10	a 15部	4.5	J 7部	600 msec	0.375 μm	Ш	1, 2 μm	なし
11	a 15部	4.5 部	K 7部	550 nsec	0. 375 μm	ட	1.2 μm	なし
	ļ			1	I	l		

【0063】上表中の感光剤A~Iは下紀のフェノール 化合物A'~ I'とナフトキノン- (1, 2) -ジアジ

- 5 - スルホン酸クロリドの反応モル比はいずれも2.0).

ドー(2) - 5 - スルホン酸クロリドとを合成例 2 と同様

[0064]

に反応させて得られたものである [上記フェノール化合 30 【化25】

[0065]

$$F'; \qquad \begin{array}{c} CH_3 & OH & CH_2 & OH & CH_3 \\ CH_2 & CH_2 & CH_2 & CH_3 & CH_3 \\ CH_3 & CH_3 & CH_3 & CH_3 & CH_3 \\ \end{array}$$

$$G'; \xrightarrow{H_3C} CH_2 \xrightarrow{CH_3} OH \xrightarrow{CH_3} CH_3$$

[0066] 樹脂a:m-クレゾール/p-クレゾール =70/30、クレゾール/ホルマリン=1/0.8 のモル比 でな酸酸性を用い、選抜下に反応させて巻られた/ポラック樹脂 (GPC パケーンにおける未反応フェノール報の パターン面積を除いた全パターン面積に対する分子量60 の以下の面積が34%であり、且つ分子量100以下の面 積比が15%であり、しかも重量平均分子量が8000である アルカリ可俗性樹脂 (分子量はいずれもポリスチレン検 乳))。

機節 b: m - クレゾール/p - クレゾール=60/40に変 40 える以外は上配と同様にして得られたノボラック機能 数節 c: m - ウレゾール/p - クレゾール-80/50に変 える以外は上配と同様にして得られたノボラック機能 [0067] 添加剤:下式で示される化合物。 [0068]

[化27]

【0069】又、高速液体クロマトグラフィーによる制度 症候果 (キノンジアジドスルホン酸ジェステルの、キノ ンジアジドスルホン酸エステル (全感光剤) に対するパ ターン面積比 (ジエステル比と略配する)〕 を下表に示 す。

【0070】 【表4】 31

(17)

特別平6-167805

ジェステル比		
0.70/1		
0.68/1		
0.54/1		
0.81/1		
0.51/1		
0.75/1		
0.62/1		
0.43/1		
0.62/1		
0.70/1		
0.85/1		

10